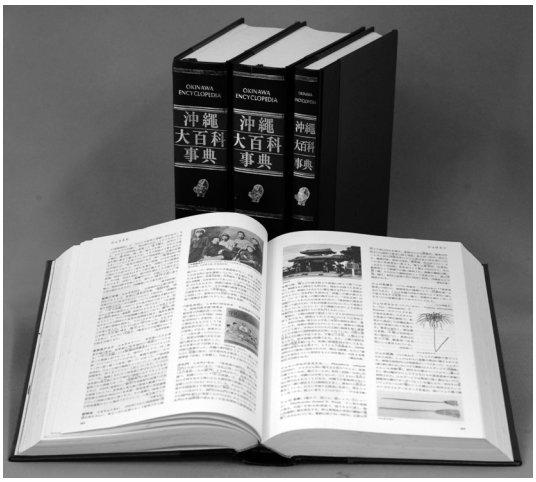
地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

■追悼　上間常道さん
『沖縄大百科事典』の功績
「これで沖縄を語る基礎ができた」

文・沖縄タイムス社出版部長　友利仁



沖縄大百科事典刊行事務局編、1983（昭和58）年沖縄タイムス社刊。同社が創刊35周年を記念して刊行した上中下3巻・別巻1からなる沖縄初の大百科事典。約1万7000項目を収録。

沖縄で出版に携わった人間で上間常道（うえま・つねみち）の名を知らない者はいない。圧倒的で濃密な仕事の成果を語る者もおれば、仕事以外の破天荒なエピソード（その多くは酒の席での）の思い出を語る者もいる。私が知る限り、語る人のほとんどはその両方とも飛び出す。私の経験からいっても同様である。

仕事に関しては何といっても『沖縄大百科事典』（1983年刊行、全3巻別巻1）である。千人を超える執筆者、編集スタッフ約30人、収録は1万7千項目の大事業、これを沖縄タイムス社の創刊35周年記念出版とするために3年で完成させた。同書の編集長を務めた新川明氏（後に沖縄タイムス社社長）は、その内容の緻密さと豊かさ、計画通りの完成も含めて「沖縄にあってはまさに空前絶後の壮挙」と表現した。その編集作業の実質的な陣頭指揮を執っていたのが上間さんだった。

沖縄の歴史のエポック

完成時は「復帰」から11年。1980年代は地域百科事典が一種のブームだったというが、本土化の波に飲み込まれようとしていた当時の沖縄では、真剣に「沖縄喪失の危機」が論じられており、だからこそこの事典の完成は、沖縄の歴史のエポックとして位置付けられてもいいだろう。3万セットを売り上げたうち、予約だけで2万5千セットあったということは、県民にとっていかに待望の企画だったかが分かる。その成果について上間さんは後に「これで沖縄を語る基礎ができた」「沖縄研究の“道しるべ”ができたことの意味は限りなく大きい」と語っている（多和田真助著『沖縄の海図』でのインタビュー）。

「中興の祖」として多くの良書を生み出した上間常道さん

沖縄タイムス社は創刊の翌年である1949年から出版活動を開始し、沖縄戦記の原点ともいえる『鉄の暴風』、『伊波普猷選集』といった“沖縄学”の泰斗の著作集、雑誌『新沖縄文学』、「タイムス選書」シリーズなどの名著を通して、戦後沖縄の出版界を常にリードしてきた存在であるが、上間さんはその「中興の祖」として多くの良書を生み出してきた。同社を退職後は、出版舎Mugenを立ち上げ最期まで編集者として生きた。亡くなるその時まで仕事のことを気にかけていたという。沖縄タイムス在職中も、病気で倒れ運ばれた時も「仕事があるから入院できない」と言い張り、説得に手間がかかったのを思い出した。

私が入社してから15年間、彼の仕事ぶりを間近で見てきた。退職後は会う機会も減ったが、その旺盛な仕事ぶりは出来上がった本で確認できた。そんな私から見ると、上間さんにとっての仕事（本を出すこと）とは生きることと同義だと思えてならない。会社内で彼の仕事に対して直接に反論・反対できる人間はいなかった。おそらく多くの著者にとっても同様だっただろう。それは知力と経験からくるずば抜けた編集者としての能力が一番の要因だろうが、それだけでない「覚悟」のようなものがあったからではないだろうか。大学を卒業し初めてであった社会人が「上間常道」という存在であることは、その後の私にとっては決定的な意味を持つことになった。

先の『沖縄の海図』では、仕事における姿勢についてこう語っている。「基本は“黒子”を徹底して演じることで、書き手の個性を引き出していく。反面

譲れない領域がある。設定した水準から内容を落とさないことだ。事実を確認し内容に納得できない記述があれば執拗に書き換えを求める」「いい本を編集・出版することは、この格闘の結実」。

私が上間さんに言われた言葉でよく覚えているのは「お前はもっと著者と喧嘩しないと駄目だ」。著者の意向を尊重するだけでなく、喧嘩することで著者の（その本の）よさをもっと引き出せ、という意味と理解している。本づくりに最も必要で、かつ私に足りないものを端的に言い当てていると思う。上司としてもそうだった。指示は簡潔で的確、それでもいざ問題が起こったら矢面に立って事を処理し、何事もなかったように自分の仕事に戻っていった。酒が入ると人が変わるとは多くの人が指摘するところ。確かに一緒に酒を飲んで仕事の話になると、あまりの舌鋒の鋭さに泣きながら帰ったことも一度や二度ではなかった。言葉はきついが、彼の言葉はほとんど正論だったからだ。だから酒で「人が変わる」とは私は思っていない。私にとっては筋の通った先輩であり上司だった。ただその筋を通すために無理をしながら、それが時折爆発したのだろうと考えている。

（ともりひとし・沖縄タイムス社出版部長）

＊

上間常道さんは8月1日、那覇市内の病院で死去。75歳。

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『沖縄県知事　翁長雄志の「言葉」』●沖縄タイムス社編

「いばらの道を歩むことになる」。2014年11月、現職知事を大差で破って当選し、その証書付与式に出席した折の言葉である。そして2018年7月、亡くなる10日前には、「全ての責任を持ち自分の決断の下で撤回する」。厳しい覚悟で国と対峙してきた翁長氏。在任中の死はどんなにか無念であったに違いない。その、復帰後最大の上京行動となった2013年1月のオスプレイ配備反対東京集会での那覇市長としての決意表明から、死後の2018年8月、辺野古新基地建設断念を求める反対県民集会で披露された生前に次男に語った言葉まで、133編に及ぶ語録で、各語に当時の状況や背景を簡潔に記した編者による解説が付されている。同氏が「ヌチカジリ、チバラナーヤーサイ（命の限り頑張りましょう）」と走り続けた4年余は、まさに命を削っての闘いの歴史であり、言葉の端々からウチナーンチュ（沖縄の人）としての誇りと、沖縄が抱える問題の複雑さや苦悩が浮かび上がってくる。

◆ 1,080円・四六判・179頁・**沖縄タイムス社**・沖縄・20180908刊・ISBN9784871272551

『軍用沖縄本島全図　－沖縄学研究資料１２』●榕樹書林編

本図は1968年に米軍が作製した沖縄本島の十万分の一軍用地図の復刻版です。主に占領行政と軍事利用の目的で作られたということもあって、様々なデータが書き込まれています。特に海についての情報は豊富です。艦船や潜水艦の出入りに用いられたのでしょう。沿岸部の海底地形はもちろん、潮流の速さや方向も記録されています。珊瑚・泥・砂など海底の地質まで事細かに記録されています。陸地に目を転じると、多くの飛行場が目に付きます。折しもベトナム戦争の時代、北爆の飛行機もここから飛んでいったのでしょう。しかし中にはわざわざ「打ち捨てられた」と注釈がついているものもあります。本島南部にはタンクやアンテナも立ち並び、多くの施設があったことが一目でわかります。一方で北部の山岳地帯には余り軍用地は見られません。北部演習場とかは載っていないのかな？何が描かれて何が描かれていないのかまで、あれこれと考えさせる興味の尽きない地図です。

◆ 2,160円・785mm × 1090mm判・**榕樹書林**・沖縄・20181006刊・ISBN9784898052068

『詩のまち　前橋』●久保木宗一著

「水と緑と詩（うたのルビ）のまち」がキャッチフレーズの群馬県前橋市。とりわけ明治から昭和にかけて詩人の宝庫であり、日本の近代詩を確立した萩原朔太郎をはじめ、「草津節」の作詞者と伝えられる平井晩村や明治初年創業の「煥乎堂書店」創業者を父に持つ高橋元吉、前出のフレーズの作者でもあり、日本を代表する文芸評論家の伊藤信吉など数多くの人材を輩出した。このような例は他に見られず、なぜ前橋なのかを、詩人であり、前橋市立図書館及び前橋文学館に勤務経験のある著者が詩的風土から検証し、朔太郎ら8人の詩人の業績をひもとき、現代詩を産み出す原点を突き詰める。さらに前橋市立図書館の果たした役割や、館長として生涯朔太郎の資料の収集・保存に尽力し、その偉大さを全国に知らしめた渋谷国忠の功績にも触れる。著者が委員として携わり、1996年に日本で初めて開催された「世界詩人会議」のレポートもあり、詩（うた）のまちの溢れる魅力を未来に伝える研究書である。

◆ 648円・Ａ５判・78頁・**上毛新聞社**・群馬・20180925刊・ISBN9784863522152

『明恵　栂尾高山寺秘話　上』●高瀬千図著

著者がまえがきで書いているように、鎌倉時代初期、多くの優れた宗教家、法然や親鸞、日蓮、道元などが現れ、今でもよく知られているというのに、同時代の偉大な思想家であった明恵の名がそこにないのは、ひとえに明恵が、信仰は一人一人の心の中のことであるゆえに、決して教団や組織を作ってはならない、と弟子たちに遺言したからだ。著者は、そんな明恵の仏教思想の現代性に魅せられ、本書を20年も前に着想したと言う。上下巻合わせて1000ページにわたる大著の上巻では、まず、明恵の伯父にあたる湯浅宗孝の出家の場面が描かれる。紀州有田の豪族である湯浅家は武士の家柄であり、やがて源平の争いに巻き込まれていくことになるが、宗孝は、空海ゆかりの廃寺再興の大願を発して洛中を彷徨う荒くれ法師・文覚に惹かれ、出家を決意する。この宗孝が明恵の出家を先導することになるが、その師である文覚が平家滅亡を念じ、頼朝決起の黒幕として東奔西走する場面を綿密に描くことで明恵の生きた時代の背景、状況がよくわかるようになっている。

◆2,376円・四六判・488頁・**弦書房**・福岡・20180930刊・ISBN9784863291782

『明恵　栂尾高山寺秘話　下』●高瀬千図著

明恵の師である怪僧・文覚の政治的手腕により、世は平家から源氏の時代に移る。空海ゆかりの寺院再興という文覚の大願は頼朝の庇護により果たされた。しかし絶頂を極める文覚周辺の賑わいに、明恵は修行に集中できぬ苦悶を感じ、遂には文覚の元から「逃亡」を企てる。明恵の修行の様相はすさまじく、恋情を覚えた自らを律するために片耳をそぎ落とすほどだった。この下巻で見落としてならないのは、明恵が法然寂滅に際して、かの『選択本願念仏集』を読み、深い失望と激しい怒りを覚える場面だろう。読後明恵はすぐに反論を書き始める。そしてもう一つ、承久の乱で焼け出された貴族の子女を匿ったことで六波羅に引き立てられ、時に権力の頂点を極めつつあった北条泰時と運命的な出会いを果たした場面だ。この時「木の陰、岩の狭間に隠れているものを、わが身の難儀を恐れて敵に引き渡すことなど誰ができましょうか」と毅然と言い放つ明恵に心服した泰時は、その後度々明恵に教えを乞い、名高い御成敗式目の理念に生かしたとされる。

◆2,376円・四六判・518頁・**弦書房**・福岡・20180930刊・ISBN9784863291799

『有木物語』●次重寛禧著

「有木」という名称は、『平家物語』に「有木の別所」として登場する。鹿ケ谷事件で鬼界島に流された丹波少将成経が、赦免されて平判官康頼とともに都に戻ってくる途中、備前児島のこの地で処刑された父・成親の菩提のため七日七夜の大念仏をいとなむ。別所とは、本寺を離れた聖たちが学問や修行などを目的に設けられたもの。五来重氏によると、成経の行為は、聖による勧進・唱導のそれだという。有木別所（高麗寺）が置かれたのは、古代に霊山と崇められた「吉備の中山」で、和歌に多数載るなど都に聞こえた名所である。備前と備中の国境に位置し、東麓には吉備津彦神社、西麓には吉備津神社がある。中世にはともに一宮として成立するが、備後国の一宮も吉備津神社である。有木別所あたりを本拠とした有木氏が備後国に移り住んで吉備津神社の社家となった。その際に日野山を吉備の中山に見立て「備後の中山」とした。有木の別所に相当する別所「長遠寺」も存在する。

◆2,484円・A５判・341頁・**吉備人出版**・岡山・20180711刊・ISBN9784860695422

地方小出版 流通センター

ジャンル別 新刊案内

2018年10月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆あおもり草子　Ｎｏ．２５４　佐藤　史隆編　Ａ４　48頁　６００円　企画集団ぷりずむ［青森］　978-4-503-21584-0　18/10

◆秋田民俗　４４　秋田県民俗学会編　Ａ５　35頁　１５００円　秋田文化出版［秋田］　978-4-503-21593-2　18/07

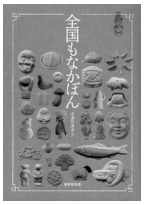
◆GREEN REPORT　４６５　２０１８年９月号　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット［埼玉］　978-4-905457-97-8　18/09

◆GREEN REPORT　４６６　２０１８年１０月号　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット［埼玉］　978-4-905457-98-5

売行良好書　期間：2018年10月15日～11月14日

［出荷センター扱い］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『よみきかせのきほん』810円・東京子ども図書館　(2)『全国もなかぼん』1728円・書肆侃侃房　(3)『バウムクーヘン』1404円・ナナロク社　(4)『京都の市電　昭和を歩く』1620円・トンボ出版　(5)『日本を愛した人類学者』2376円・忘羊社　(6)『踏み絵とガリバー』2052円・弦書房　(7)『フェルメール』2160円・ナナロク社　(8)『「学力日本一」の村』1836円・無明舎出版　(9)『ナガサキの郵便配達』874円・スーパーエディション　(10)『ようこそ、読書のアニマシオンへ』1944円・南方新社　(11)『反ヘイト・反新自由主義の批評精神』2160円・寿郎社　(12)『信州の日本酒と人』1728円・川辺書林　(13)『こないだ』2160円・編集工房ノア



［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『昭和プロレスマガジン　４７』1000円・昭和プロレス研究室　(2)『東京かわら版　１１月号』500円・東京かわら版　(3)『本の雑誌　４２６号』720円・本の雑誌社　(4)『たべるのがおそい　Ｖｏｌ．６』1404円・書肆侃侃房　(5)『遠くの敵や硝子を』2268円・書肆侃侃房　(6)『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図』823円・吉備人出版　(7)『昼夜日記』2160円・本の雑誌社　(8)『北海道いい旅研究室　１６』810円・海豹舎　(9)『群馬の古墳物語　上巻』1620円・上毛新聞社　(10)『群馬の古墳物語　下巻』1620円・上毛新聞社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『北海道いい旅研究室１６』810円・海豹舎　(2)『短歌タイムカプセル』1620円・書肆侃侃房　(3)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(4)『近世の扉を開いた羽柴秀吉』1620円・サンライズ出版　(5)『鹿児島古寺巡礼』1944円・南方新社　(6)『奥多摩登山詳細図（東編）』950円・吉備人出版　(7)『おきなわ　辺野古』1080円・榕樹書林　(8)『島津日新公いろは歌』540円・高城書房　(9)『花畑屋敷四百年と参勤交代』1944円・熊本日日新聞社　(10)『奥武蔵登山詳細図』950円・吉備人出版

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼「本づくりはまちづくり」を理念に掲げ、岡山で出版活動を続ける**吉備人出版**が、地元企業等の社史や記念誌編纂に携わってきたそのノウハウを生かし、企業・団体の史料（資料）を整理・保存・活用する方法を提案、代行するアーカイブ事業「ビジネス・アーカイブ・ラボ」を始めたとのことです。「…企業としては、こうした企業史料の重要性を認めながらも、・どのように保管しておけば良いのかわからない・資料保管、整理のための人員・経費を避けることができない・今のうちに創業者やOBの話を聞いておかなければ、何も記録が残っていない・残していても、活用方法が思いつかない……などなど、ある程度の必要性、価値を認めつつも、通常業務の一つとして、企業アーカイブの整理・保存・活用に取り組めていないのが現状ではないでしょうか。吉備人では、こうした企業・団体の資料の整理・保存・活用の必要性、重要性を訴えつつ、その業務の代行を受託し、企業アーカイブを地域資源の一つとして位置づける活動をビジネス化することにいたしました。…こうした企業アーカイブズに関する事業は、全国的には大手印刷会社など数社が手がけてはいるものの、岡山をはじめ、地方の中・小の企業を対象にしたアーカイブズ支援事業は、十分に認知されているとはいえず、ほとんどの企業においてはまだ手つかずの状態にあるようです。」（ビジネス・アーカイブ・ラボのフェイスブックより）

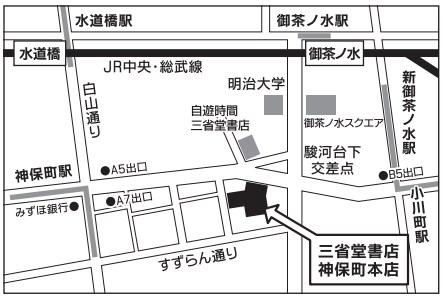
郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店　営業のごあんない

神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM ～ 8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。